

反応線が存在する火山灰層 (GL-23.80、28.80、31.90、32.30、37.30m) や軽石層 (28.90m) が存在し、その周囲の基質は固結している。

上記のため、土石流のイベントと火山活動が同時期に発生しているものと考えられる。

GL-37.80m付近は火山灰を挟み、堆積構造が存在する。

GL-40.50~43.00mは気質部が固結し、凝灰角礫岩を呈す。

GL-44.00~46.20mは玉石・礫となる。

45.50~4720m安山岩の転石。

φ40mm以下の礫と粗砂より成る。粗砂と礫は暗灰と褐色の安山岩、長石、角閃石から成る。GL-48.85m付近は火山灰層を挟む。

φ500mm以下の玉石が混じる砂礫。玉石の間を砂礫が充填する。玉石、礫は安山岩、軽石、多孔質な安山岩起源で、円~垂角を呈す。

φ15mm以下の礫が混じる火山灰質砂。砂は中~粗砂で安山岩、長石、角閃石よりなる。GL-53.20、53.80、54.15、55.70m付近に火山灰層を挟む。

全体に上方粗粒化傾向を示す火山灰質砂。GL-56.50m付近に軽石質の薄層を挟む。上部は半固結状態である。

φ50mm以下の礫と粗砂よりなる。上方細粒化するユニットが3枚存在。GL-58.30mは黄褐色の火山灰層を挟む。

φ100mm以下の玉石が混じる砂礫。玉石、礫は角~垂円を呈す。GL-59.60~59.80m付近はやや固結する。

φ30mm以下の礫が混じる火山灰質砂。礫は垂角~円を呈し、安山岩やデイサイト起源。

全体に下部ほど粗粒分が多くなる。GL-60.00~61.00の間は数枚の火山灰層を挟み、GL-61.70~61.80、62.80~62.90、63.70m付近にも火山灰層を挟む。

GL-63.80~64.00、64.50~64.60、66.30m付近は砂礫状となる。GL-63.10~63.30mの間は石英粒子がやや多い。

66			礫混り火山灰質砂	暗灰	
	-6.67	66.55			
67			玉石混り砂礫	暗灰 褐灰	
	-7.32	67.20			
	-7.82	67.70	砂礫		
68					
69			礫混り火山灰質砂	暗灰	
	-10.12	70.00			
70			玉石混り砂礫		
	-10.52	70.40			
71			火山灰質砂礫		
	-11.42	71.30			
72			礫混り火山灰質砂	暗灰 黄褐	
	-12.82	72.70			
73			火山灰質砂	暗灰	
	-14.22	74.10			
74			砂質火山灰	灰	
	-15.22	75.10			
75			火山灰質砂	暗灰	
	-16.32	76.20			
76			凝灰岩	茶灰	
	-17.22	77.10			
77			火山灰質砂礫	暗灰	
	-18.72	78.60			
78			礫混り火山灰質砂	茶灰	
	-20.42	80.30			
79			玉石混り砂礫	暗灰	
	-21.02	80.90			
80			火山灰混り砂礫		
	-21.82	81.70			
81			火山灰	灰 淡黄	
	-22.82	82.70			
82			凝灰岩	灰黄褐	
	-23.87	83.75			
83			玉石混り砂礫	淡褐灰	
	-28.07	87.95			
84			転石	茶	
	-29.57	89.45			
85			火山灰混り砂礫	褐灰 茶	
	-31.12	91.00			
86					
87					
88					
89					
90					
91					
92					
93					
94					
95					
96					

φ250mm以下の玉石が混じる砂礫。玉石の間を砂礫が充填する。

φ30mm以下の礫と粗砂よりなる。礫は角～亜角を呈し、安山岩起源。

φ30mm以下の礫が混じる火山灰質砂。礫は安山岩、軽石、凝灰角礫岩起源で、角～亜円を呈す。GL-68.30、69.40～69.70m付近は砂礫状となる。

φ200mm以下の玉石が混じる砂礫

φ70mm以下の礫と粗砂よりなる。礫は安山岩、デイサイト起源で角～亜円を呈す。

φ50mm以下の礫が混じる火山灰質砂。礫は安山岩、デイサイト、軽石起源で角～亜円を呈す。GL-72.20～72.40mの間は黄褐色の軽石が複数混じる。

非常に淘汰が良く、中砂主体で所々に火山灰層の薄層を挟む。φ20mm以下の礫が少量混じる。

堆積構造が存在する火山灰層。GL-74.25、74.45、74.60、74.80m付近に砂層が存在。GL-74.60m付近のものは黄灰色で軽石質。中～粗砂主体で火山灰が混じる。砂分は安山岩片や長石、石英、角閃石よりなる。

デイサイト質の凝灰岩。φ20mm以下の安山岩礫や長石、石英、角閃石が混入している。

所々に凝灰角礫岩を挟む火山灰質砂礫。礫はφ30mm以下で亜円～亜角を呈す。GL-77.35、77.85、78.05、78.25、78.40～78.50m付近に淡黄色の軽石が混入している。

φ40mm以下の礫と粗砂よりなる。火山灰が多く混じる。GL-79.50、80.15mに転石が存在。GL-80.00～80.30mはやや固結する。

φ130mm以下の玉石が混じる砂礫。GL-80.90m付近は基質部が固結する。上方細粒化し、上部は砂主体で、下部は砂礫状である。

GL-81.70～82.10mはφ30mm以下の軽石を多く含む火山灰。GL-82.10～82.70mは火山灰で、GL-82.20m付近は堆積構造が卓越する。黄褐色を呈す凝灰岩。GL-83.75m付近は下位の玉石混じり砂礫層と基質が漸移する。

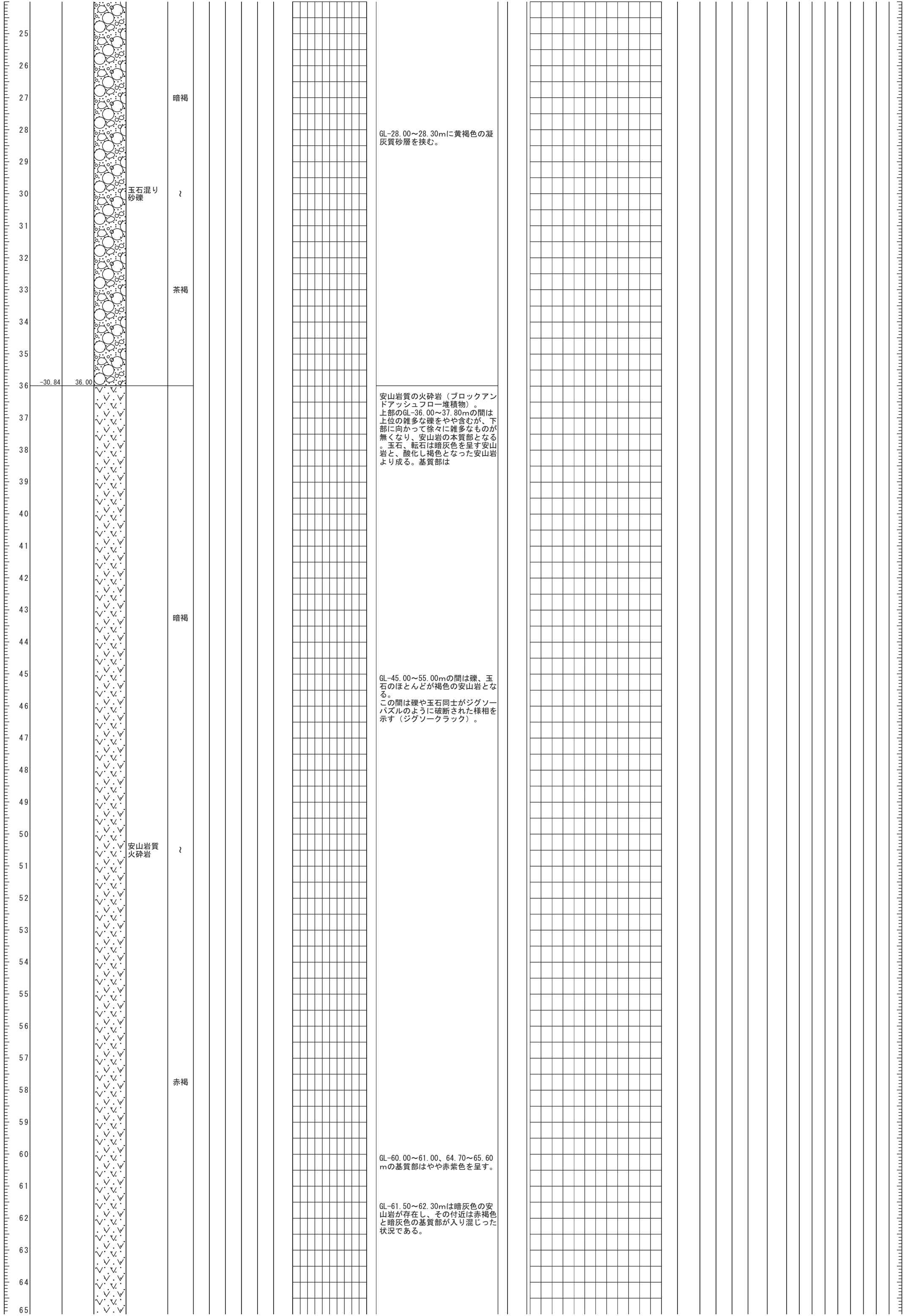
φ100mm以下の玉石が混じる砂礫。礫は角～亜円を呈し、褐色や暗灰色の安山岩、デイサイト起源で色調が多様である。GL-84.00～84.60mは基質部が固結する。GL-87.00～87.95mの間は褐色に酸化し、空隙が多い。

安山岩の転石。斑晶として、長石、極少量の角閃石が存在する。

安山岩の上位の玉石混じり砂礫層と同様の組成を示す。GL-90.50～90.60mも褐色の安山岩分布し、アグルチネートの可能性がある。







暗褐

玉石混り  
砂礫

茶褐

暗褐

安山岩質  
火砕岩

赤褐

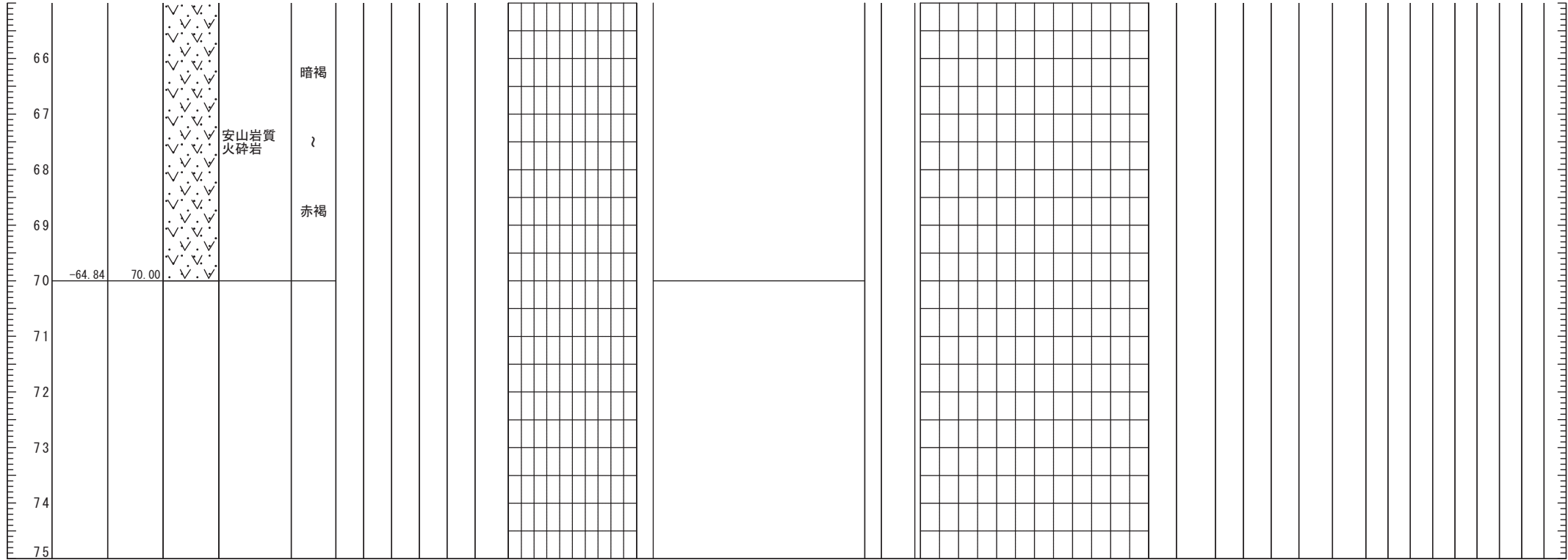
GL-28.00~28.30mに黄褐色の凝灰質砂層を挟む。

安山岩質の火砕岩（ブロックアンドアッシュフロー堆積物）。上部のGL-36.00~37.80mの間は上位の雑多な礫をやや含むが、下部に向かって徐々に雑多なものが無くなり、安山岩の本質部となる。玉石、転石は暗灰色を呈す安山岩と、酸化し褐色となった安山岩より成る。基質部は

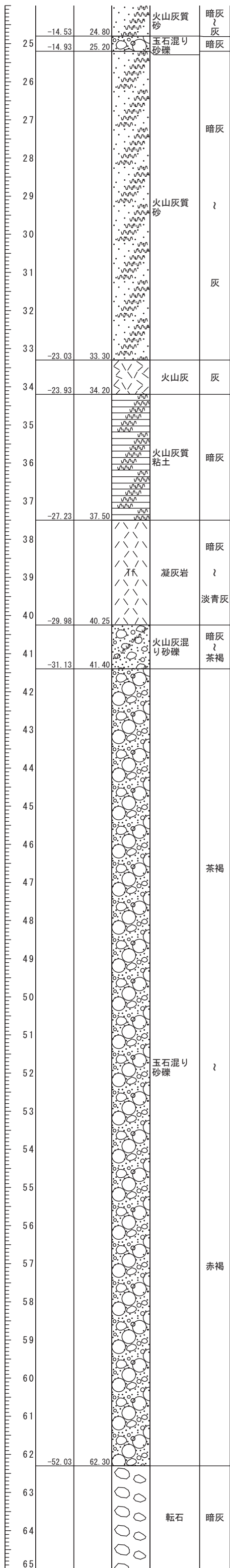
GL-45.00~55.00mの間は礫、玉石のほとんどが褐色の安山岩となる。この間は礫や玉石同士がジグソーパズルのように破断された様相を示す（ジグソークラック）。

GL-60.00~61.00、64.70~65.60mの基質部はやや赤紫色を呈す。

GL-61.50~62.30mは暗灰色の安山岩が存在し、その付近は赤褐色と暗灰色の基質部が入り混じった状況である。







φ100mm以下の玉石が混じる砂礫

火山灰が多く混じる砂。非常に淘汰が良く、粗砂主体。GL-27.40、29.10、29.30~29.40付近に火山灰層を挟む。

GL-27.80~27.90m付近に多孔質な軽石が存在する。色調は黄褐色で安山岩質である。

GL-28.80~29.10mはφ10mm以下の礫が混じる。

GL-31.00~32.00mの間はやや火山灰が多くなる。

微細な長石等を含む火山灰。所々に安山岩質の軽石が存在する。

非常に締まっている火山灰質の粘土。GL-34.70、35.00~35.10m付近は砂が混じる。GL-35~36mの間は堆積構造が存在する。

淡褐色、淡黄色、黄褐色と様々な色調を呈す凝灰岩。各色調の層とも、デイサイト質や安山岩質の礫、軽石を含む。GL-38.10~38.30mは固結していない火山灰層を挟む。

φ30mm以下の礫と粗砂よりなる。礫は安山岩起源で褐色のものが少ない。粗砂の大部分は火山灰である。

φ200mm以下の玉石と火山灰が混じる砂礫。玉石や礫は角~垂角を呈す。玉石と礫は安山岩や軽石から成る。

GL-41.40~41.60mは溶結した軽石質の玉石が存在。基質は主に火山灰、火山砂、火山礫が充填する。

GL-45.30~45.45mの間に茶褐色の火山灰層を挟む。

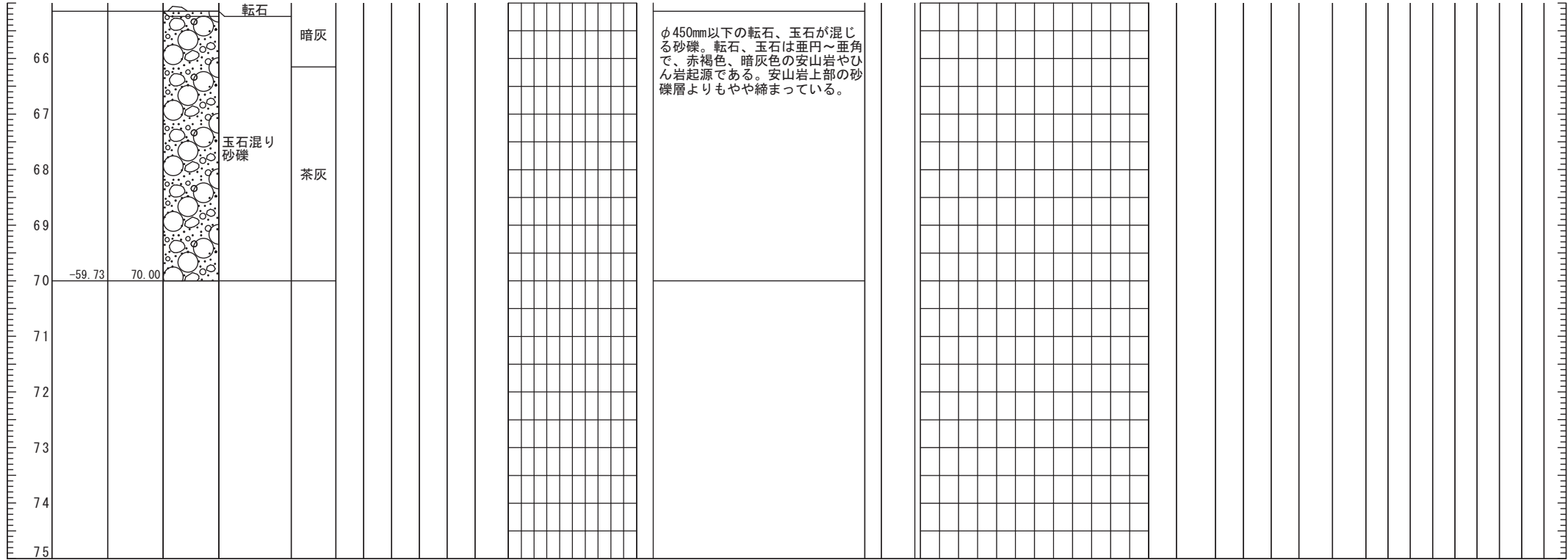
GL-53.20~53.95mは多孔質な安山岩の転石が存在する。

GL-55.40~57.90mは玉石が多く存在し、安山岩やデイサイト起源である。

GL-60.20~60.50、61.80~62.10mは褐色の火山灰質砂が存在する。

安山岩の転石。気孔が多く存在し、流動した方向に引き伸ばされている。GL-65.15m付近の下位層との境界は40°程度である。





φ450mm以下の転石、玉石が混じる砂礫。転石、玉石は垂円～垂角で、赤褐色、暗灰色の安山岩やひん岩起源である。安山岩上部の砂礫層よりもやや締まっている。